千葉県文化財センター調査報告第433集

成東町　境川A遺跡

－県単交通安全対策事業埋蔵文化財調査報告書－

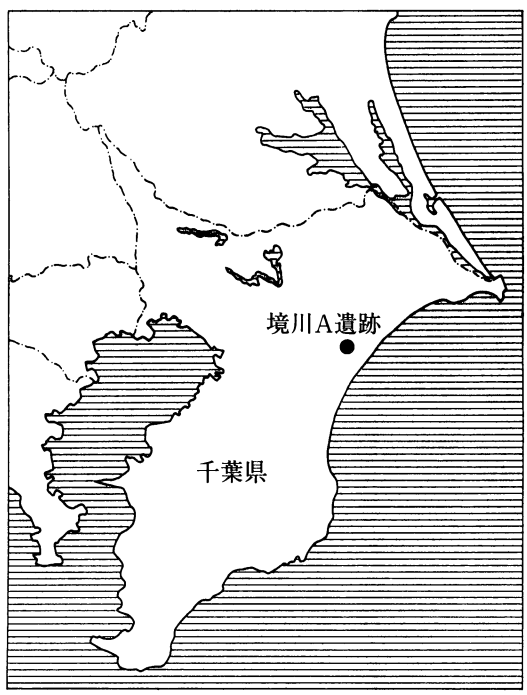
平成14年3月

千　葉　県　土　木　部

財団法人　千葉県文化財センター

成東町　境川A遺跡

－県単交通安全対策事業埋蔵文化財調査報告書－



序　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第433集として，千葉県土木部の県単交通安全対策事業に伴って実施した山武郡成東町境川Ａ遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，古墳時代前期以前にさかのぼる可能性のある水田区画が検出されるなど，この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成 14 年 3 月 25 日

財団法人千葉県文化財センター
理事長　清　水　新　次

凡　例

1　本書は，千葉県土木部による県単交通安全対策事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は，千葉県山武郡成東町津辺字小出下944ほかに所在する境川Ａ遺跡（遺跡コード404-008）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，千葉県土木部の委託を受け，千葉県教育委員会の指導のもとに，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の組織，担当者，実施期間は，下記のとおりである。

本書の執筆は研究員　黒沢 崇が担当した。

平成12年度	期　間	平成12年10月２日～平成12年10月31日
	組　織	東部調査事務所長　折原 繁
		担当者　上席研究員　鈴木弘幸
	内　容	発掘調査　調査対象面積　1,216㎡　　確認調査　131㎡
平成13年度	期　間	平成14年２月１日～平成14年２月28日
	組　織	東部調査事務所長　折原 繁
		担当者　研究員　黒沢 崇
	内　容	整理作業　水洗･注記から刊行まで

5　周辺航空写真は，京葉測量株式会社による昭和49年撮影のものを使用した。

6　本書で使用した地形図は，下記のとおりである。

第１図　国土地理院発行　1/25,000　地形図「成東」　（NI-54-19-11-1）

第２図　成東町発行　1/2,500　成東町平面図６　（Ⅸ-LF 43-1）

7　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。

8　本書に収録した遺物及び記録類は，当文化財センターで保管している。

9　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁生涯学習部文化課，山武土木事務所，成東町教育委員会から多くの御指導，御協力を得た。記して感謝申し上げたい。

本文目次

第１章　はじめに …… 1
　第１節　調査の経過と概要 …… 1
　第２節　遺跡の位置と環境 …… 1
第２章　遺構と遺物 …… 3
　第１節　トレンチ調査結果 …… 3
　第２節　遺構と遺構出土遺物 …… 3
　第３節　トレンチ出土遺物 …… 6
第３章　まとめ …… 8
報告書抄録 ……巻末

挿図目次

第１図　境川Ａ遺跡と周辺遺跡 …… 2
第２図　周辺地形とトレンチ位置図 …… 4
第３図　SD001と出土遺物 …… 5
第４図　Ｄトレンチ内水田区画 …… 5
第５図　トレンチ出土遺物 …… 7

表 目 次

第１表　境川Ａ遺跡の周辺遺跡一覧 …… 2
第２表　トレンチ出土遺物点数･重量一覧表 …… 8

図版目次

図版１　遺跡周辺航空写真（S=1/10,000）
図版２　調査トレンチ
図版３　出土遺物（１）
図版４　出土遺物（２）

第1章　はじめに

第1節　調査の経過と概要

一般県道 成東山武線（県道118号）は，近年の交通量の増加に伴い道路の安全整備が急がれていた。千葉県土木部は，県単交通安全対策事業により県道の道路改良を計画し，事業に先立って埋蔵文化財の有無について千葉県教育委員会に照会を行った。これを受けて千葉県教育委員会は，事業地内に遺跡がある旨を回答した。協議の結果，遺跡の現状保存が困難であるため，記録保存の措置を講ずることとなり，調査は，財団法人千葉県文化財センターが担当することになった。

発掘調査は平成12年10月に行った。調査区に6地点のトレンチを入れ，確認調査を行った。立地が水田であるため，10月とはいえ湧水は著しく，調査は困難を極めた。調査の結果，溝状遺構や水田区画が検出された。遺物は，縄文時代土器から近代の陶磁器まで各時代の土器片などが出土した。その後，平成14年2月に整理作業を行い，今回報告書刊行の運びとなった。

第2節　遺跡の位置と環境（第1図）

境川A遺跡は，境川が直角に曲流する平野部に立地する。境川は，下総台地を開析し，九十九里平野を経て太平洋に注ぐ作田川の支流である。周辺の平野部は，ほとんど水田として利用されている。

境川流域の台地上には遺跡が数多い[1]。麻生新田古墳群・真行寺古墳群・富田古墳群・市場古墳群などの古墳時代後期を中心とする古墳群から武射郡衙跡である嶋戸東遺跡[2]・郡寺の真行寺廃寺[3]，中・近世では，津辺城・成東城[4]など大規模な遺跡が展開する。一方，低地に目を向けると，小規模な遺跡が点在する。境川A遺跡の南の同流域には，境川B遺跡・富田西遺跡・富田東遺跡があり，いずれも，未調査のため詳細は不明であるが，古墳から奈良・平安時代の遺物が採集されているようである。

このように，境川A遺跡周辺は，台地上の遺跡に注目されることが多かったが，近年の分布調査によって低地遺跡の確認が進んでおり，本遺跡の調査は今後の低地調査を推進する上で貴重な成果といえる。

注1　1998　『千葉県埋蔵文化財分布地図(2)－香取・海上・匝瑳・山武地区（改訂版）－』　財団法人 千葉県文化財センター

　　1986　『成東町史』　成東町

2　小林信一　1998　『成東町嶋戸東遺跡発掘調査報告書』　財団法人 千葉県文化財センター

　　香取正彦　1999　『成東町嶋戸東遺跡第2次発掘調査報告書』　財団法人 千葉県文化財センター

　　香取正彦　2000　『成東町嶋戸東遺跡第3次発掘調査報告書』　財団法人 千葉県文化財センター

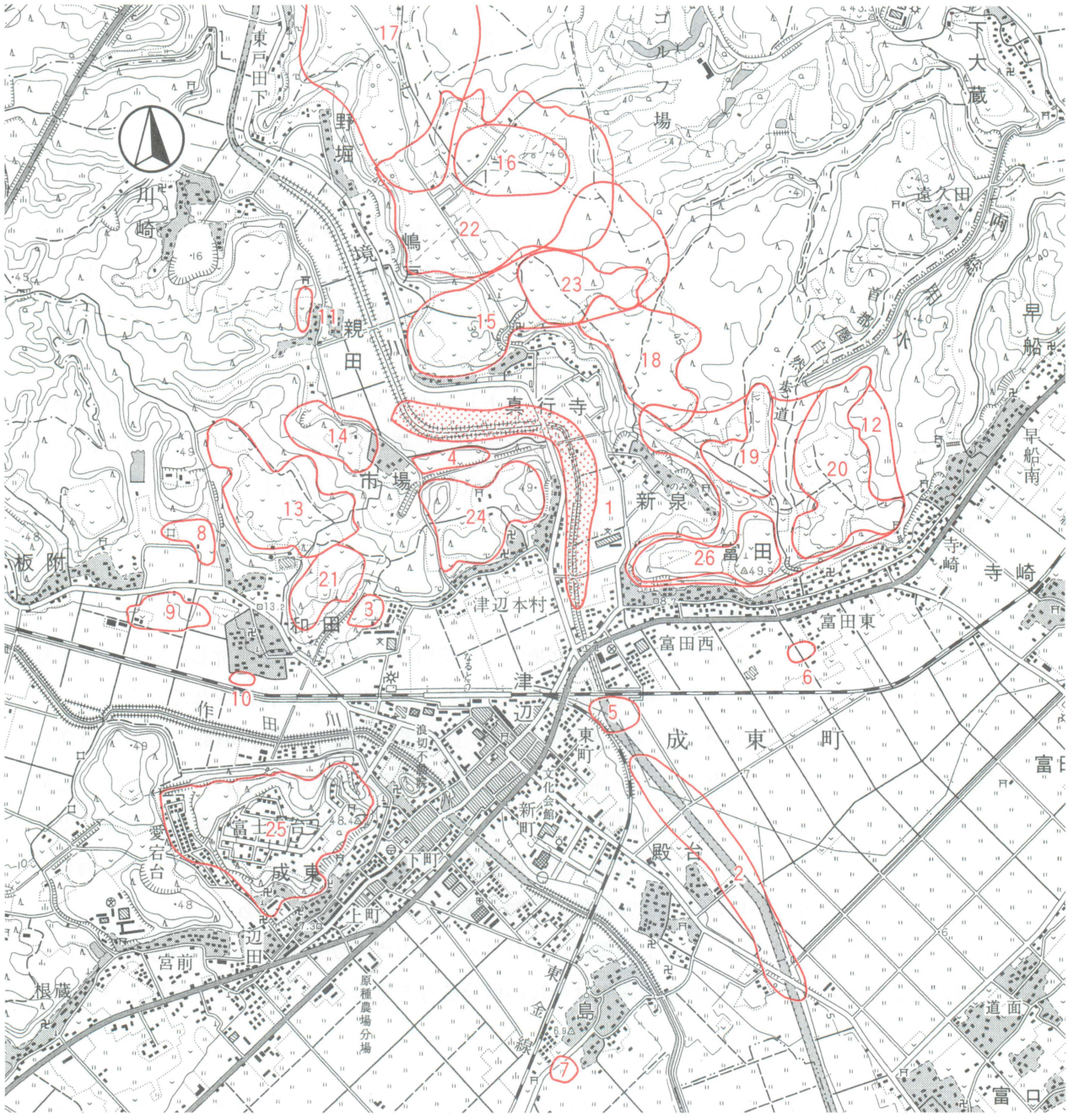
3　沼澤豊　1982　『成東町真行寺廃寺跡確認調査報告』　財団法人 千葉県文化財センター

　　沼澤豊ほか　1983　『成東町真行寺廃寺跡研究調査概報』　財団法人 千葉県文化財センター

　　天野努ほか　1984　『成東町真行寺廃寺跡研究調査報告』　財団法人 千葉県文化財センター

　　谷川章雄ほか　1985　『成東町真行寺廃寺跡発掘調査報告－鍛冶工房址の調査－』　成東町教育委員会

4　篠丸頼彦ほか　1971　『成東城跡調査報告書』　成東城跡調査団



第１図　境川A遺跡と周辺遺跡

第１表　境川Ａ遺跡の周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	種類	主時期・内容	番号	遺跡名	種類	主時期・内容
1	**境川A遺跡**	**低地**	**古墳前期**	14	市場古墳群	古墳群	後円１・円４
2	境川B遺跡	低地	不明	15	真行寺古墳群	古墳群	後円２・円13・方４
3	成東中学校北方遺跡	低地	古墳・奈良・平安	16	島戸境古墳群	古墳群	古墳４
4	日吉神社北遺跡	低地	古墳・奈良・平安	17	麻生新田古墳群	古墳群	後円２・円17・方１
5	富田西遺跡	低地	古墳・奈良・平安	18	真赤土遺跡	集落	旧石器・弥生・古墳
6	富田東遺跡	低地	古墳・奈良・平安	19	八坂台遺跡	集落	古墳・奈良・平安
7	島南遺跡	低地	古墳・奈良・平安	20	比良台遺跡	集落	古墳・奈良・平安
8	大回会北遺跡	低地	古墳・奈良・平安	21	和田遺跡	包蔵地	古墳・奈良・平安
9	堂ノ西遺跡	低地	古墳・奈良・平安	22	嶋戸東遺跡	官衛	縄文・古墳・奈良・平安
10	和田下遺跡	低地	古墳・奈良・平安	23	真行寺廃寺	寺院	奈良・平安
11	川崎貝塚	低地	縄文	24	津辺城跡	城跡	奈良・平安・中・近世
12	富田古墳群	古墳群	後円２・円12・方１	25	成東城跡	城跡	中・近世
13	和田古墳群	古墳群	後円２・方２・円21	26	富田城跡	城跡	奈良・平安・中・近世

第2章　遺構と遺物

第1節　トレンチ調査結果（第2～4図，表2，図版2）

調査区の北から順に，ＡからＦの6か所に幅2ｍのトレンチを設定した。各トレンチからは，縄文時代から近・現代の遺物が出土した。

層位は，各トレンチとも大きな違いはみられない。土層は，色調・土質から大きく4層群に分層できた。第1層群は，現代の水田に伴う土層（現耕作土・床土主体）である。第2層群は，鉄分を多く含むにぶい褐色土層である。遺物から判断し，近世以降の水田耕作土層である。第3層群は，黒褐色土を基本とし，一部で洪水由来と考えられる砂質土が混じる。第4層群は，暗青灰色土を基本とし，群中の最下層は砂質である。第5層は，暗オリーブ灰色土層である。遺物をほとんど包含せず，上面に巻き上げ痕などは確認できないため，撹乱されていない比較的安定した基盤層として認識してよいと考えられる。

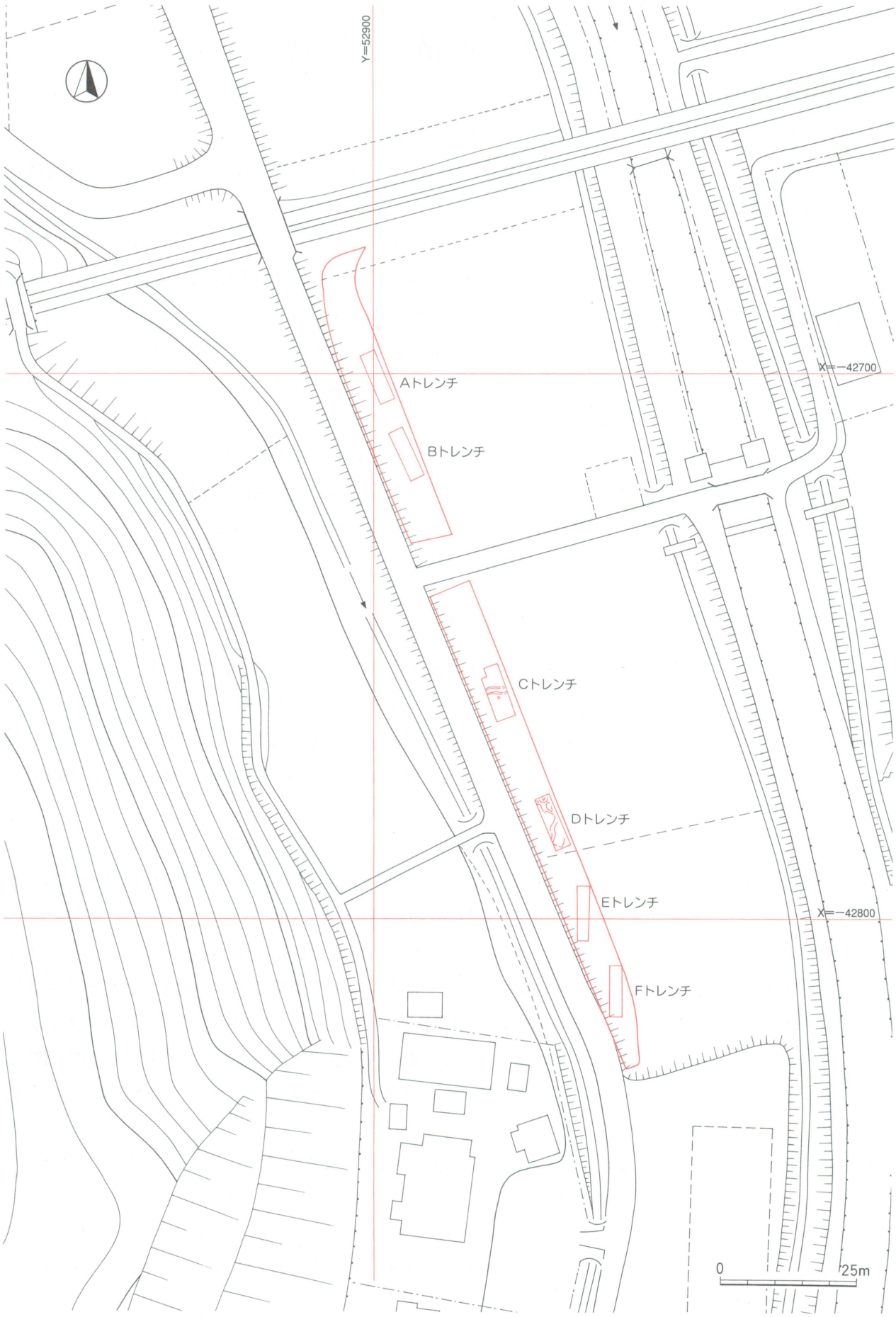
Ｃトレンチから溝状遺構が検出されたため，一部トレンチを拡張して調査を行った。また，Ｄトレンチでは，水田区画を表すと考えられる疑似畦畔を検出した。断面では，他に数面の水田耕作の痕跡が確認できるが，それぞれの面毎に平面的に水田跡を捉えることはできなかった。その他のトレンチからは，遺物が出土したのみで，遺構を検出することができなかった。

第2節　遺構と遺構出土遺物（第3・4図，図版2）

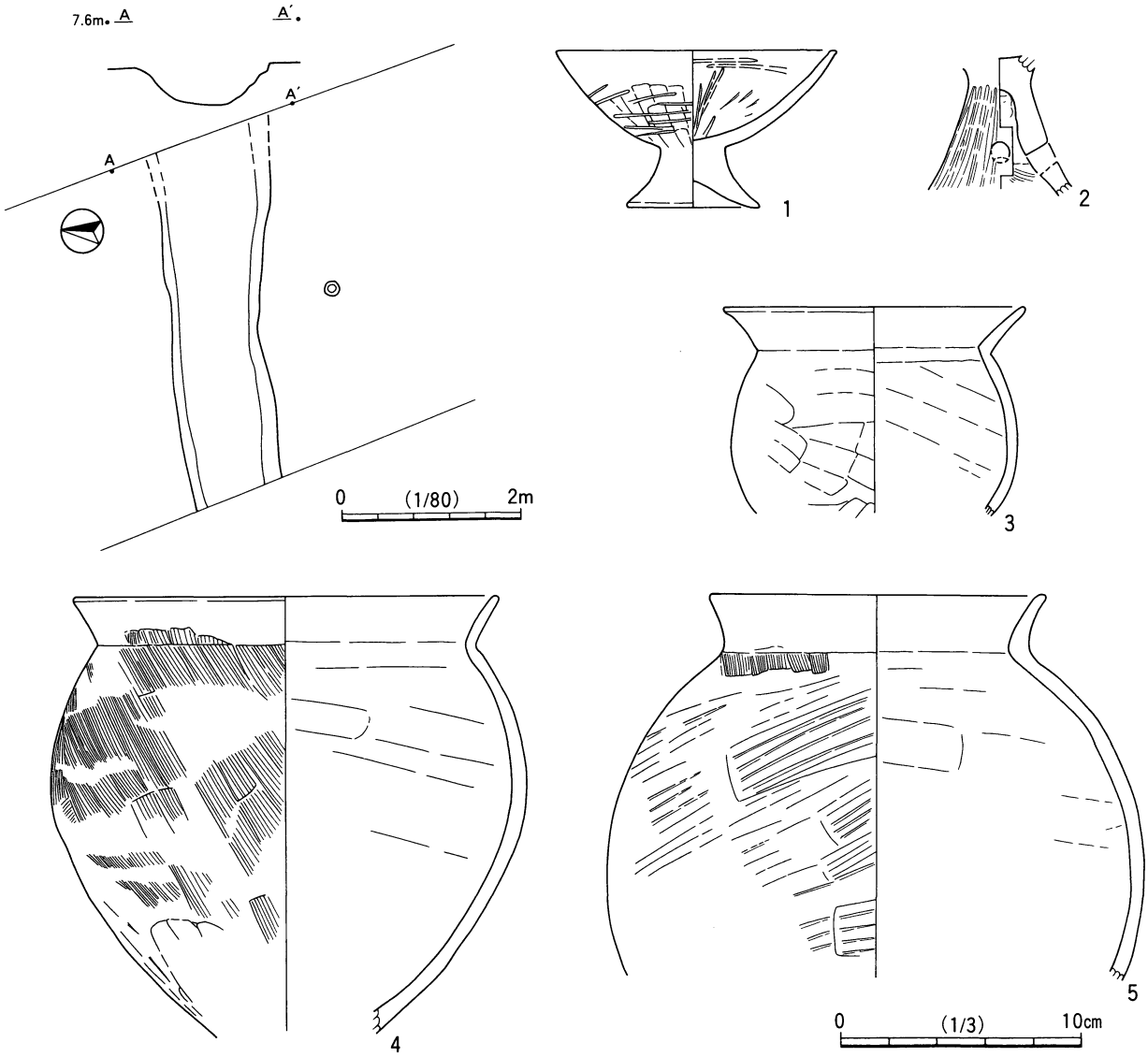
SD001(Ｃトレンチ)　第4層群の一部をきって溝が掘り込まれていた。古墳前期の遺物が底面からまとまって出土しており，該期の遺構である。このことから，第4層群は，古墳時代前期以前には堆積していた層であることが考えられる。覆土の上層には，砂質土が堆積し，溝は洪水によって機能を停止したものと考えられる。溝の規模は，幅約1.2m，深さ確認面から約0.4mである。遺物は，溝底面以外に溝周辺からも出土していた。

1・2は土師器の高坏である。1は外面・内面とも丁寧なミガキ調整である。口径11.6㎝，底径5.5㎝，器高6.5㎝である。2は脚部破片でやや裾に近い部分に穿孔される。外面は，ミガキ，内面はナデ調整が施される。3～5は土師器の甕である。3は口縁部内外面はヨコナデ，胴部外面調整はヘラケズリ後ナデ，内面調整はミガキに近い丁寧なナデ調整である。口径12.5㎝，最大胴径12.4㎝，現存長8.5㎝である。4は口縁部内外面はヨコナデ，胴部外面は細かいハケメ，胴部内面はナデ調整である。胎土には赤褐色スコリアが微量含まれる。口径17.8㎝，最大胴径20.0㎝，現存長18.2㎝である。5は口縁部内外面はヨコナデ胴部外面は口縁に近い一部分に細かいハケメがみられ，その他の大部分には，ハケメ原体が粗いもので調整している。胴部内面はナデ調整である。胎土は粗く，赤褐色スコリアが微量含まれる。口径13.9㎝，最大胴径22.5㎝，現存長15.8㎝である。

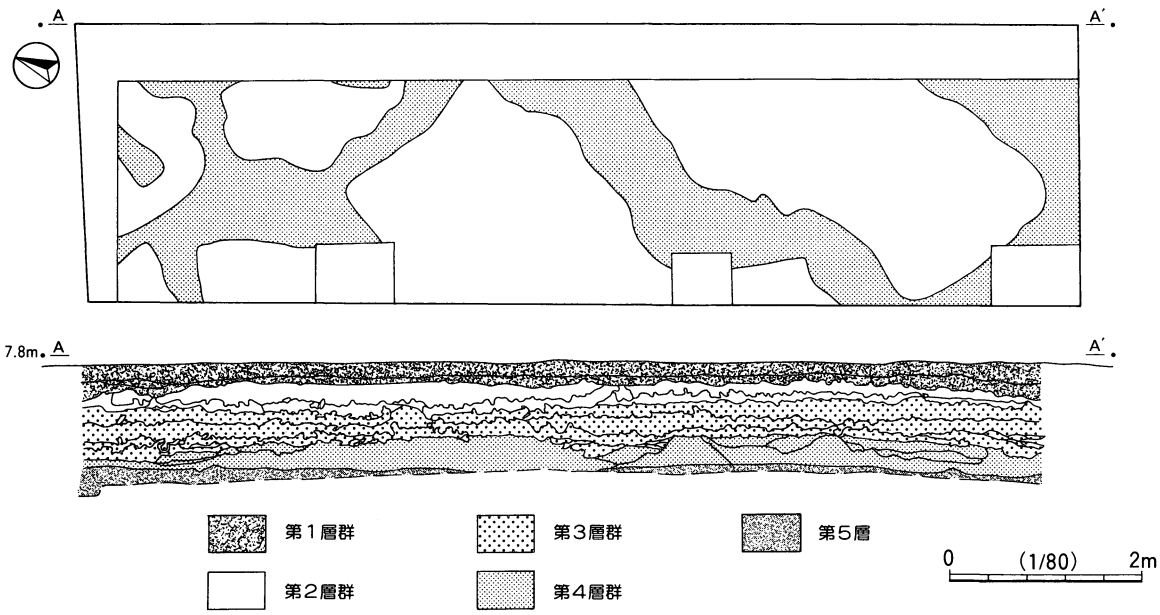
水田区画（Ｄトレンチ）　4層群中のレベル（標高6.8m前後）で，疑似畦畔とみられる痕跡を確認した。他の部分に比べ，しまりが強く，青みががった砂質粘土が畦畔部分に相当するとして，プランを想定した。トレンチ幅内のため，1区画の全体形を捉えることができなかったが，一辺2ｍ程度の小区画のものであろう。セクション図では，4層群中の最下層に畦畔状の突出が部分的にみられる。確認層位から古墳時代前期以前にさかのぼる可能性が考えられる。



第２図　周辺地形とトレンチ位置図（Ｓ＝1/1,000）



第３図　SD001と出土遺物



第４図　Ｄトレンチ内水田区画

第３節　トレンチ出土遺物（第５図，第２表，図版３）

耕作を受けているため，第１・２層群には近・現代の遺物が混在する。第３層群以下には，陶磁器の出土はない。破片数・重量は，一覧表のとおりである。Ｄトレンチ以外の遺物は，出土層位がはっきりしないため，トレンチ毎で集計した。小片かつ摩滅気味の遺物が多く時期の帰属の判断が困難なため，土師器・須恵器は，古墳時代～平安時代に属するものを一括して集計した。遺構出土遺物も出土トレンチに含めて数量を計上した。全体の傾向として，土師器，特に，ハケ目調整の施された土師器片が主体をなしている印象を受けた。

縄文土器　縄文時代の遺物はほとんど出土しなかった。１は深鉢破片である。撚糸地文に変形爪形文が施される。胎土には，微量の白色小石が含まれ，焼成は良好である。浮島２～３式に属するものと考えられる。

弥生土器　弥生時代の遺物は中期と後期の土器片が出土しているが，すべて小片であり，ほとんど接合することはなかった。２・３・４・13・14が宮ノ台式土器で５・６・７・８・９・10・11・12が後期の土器と考えられる。

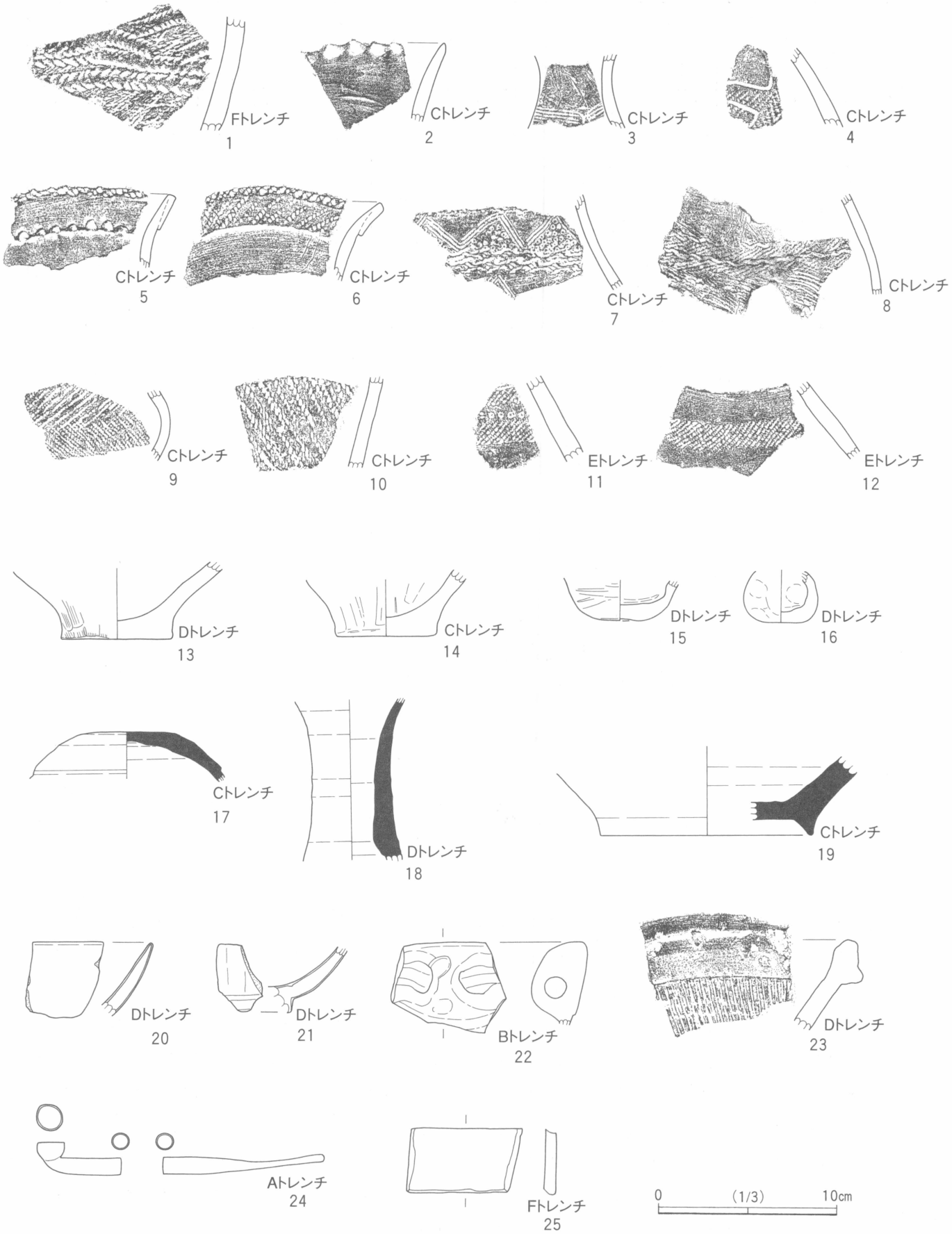
２は甕形土器の口縁部破片である。口唇部は，外面・内面から交互に指頭押捺が行われる。外面はハケメ，内面は丁寧なナデ調整が施される。胎土は，精緻で白色砂粒が微量，焼成は良好である。３は壺形土器の頸部である。一部赤彩されている。櫛描による擬流水文が施される。４は壺形土器の胴部上半部である。赤彩され，縄文を沈線で区画した文様が施される。５・６は甕形土器の複合口縁部である。口唇部に縄文が施され，５は口縁下部にキザミ目，６は口縁外面に撚糸文が施される。７は甕形土器の頸部と考えられる。３本単位の沈線でつくられた三角の波形の下に結節文を横位に施し，それらで区画した部分を刺突で充填している。結節文の下には，細沈線で格子文が施される。８は甕形土器の胴部である。ＬＲ縄文の結節文が横位に施されている。内面調整は雑である。９は壺形土器の胴部上部である。ＲＬの縄文と附加縄文が施される。10は胴部破片で，撚糸文が施されている。11・12は壺形土器胴部上半である。ＬＲ縄文が帯状に施され，赤彩されている。13・14は底部破片で，13は外面ハケメ調整，14は丁寧なミガキ調整が施される。

土師器　小破片であるため，明確な時期は判然とせず，実測可能なものが少ない。ハケメ調整のみられるものから底部に回転糸切り痕の確認できるものが出土している。15・16はミニチュア土器の破片である。外・内面ともにナデ調整が施されている。

須恵器　古式の須恵器は含まれない。17は須恵器杯蓋である。口縁下部に段をもち，そこから大きく開く形態のものであるが，口縁の遺存が悪く全体形は不明である。胎土は精緻で，焼成は良好である。18は長頸壷の頸部破片で，一部に自然釉が付着する。胎土に微量の黒色粒子が含まれる。

中・近世遺物　少量の出土である。19～21が中世，22～24が近世の所産のものと考えられる。19は須恵質の片口鉢の破片である。外面は粗いケズリ痕が残され，内面は平滑である。胎土には，白色粒子が含まれる。底径は12㎝である。20・21は龍泉窯系の青磁碗の破片である。22は焙烙破片，23は擂鉢破片，24はキセルである。

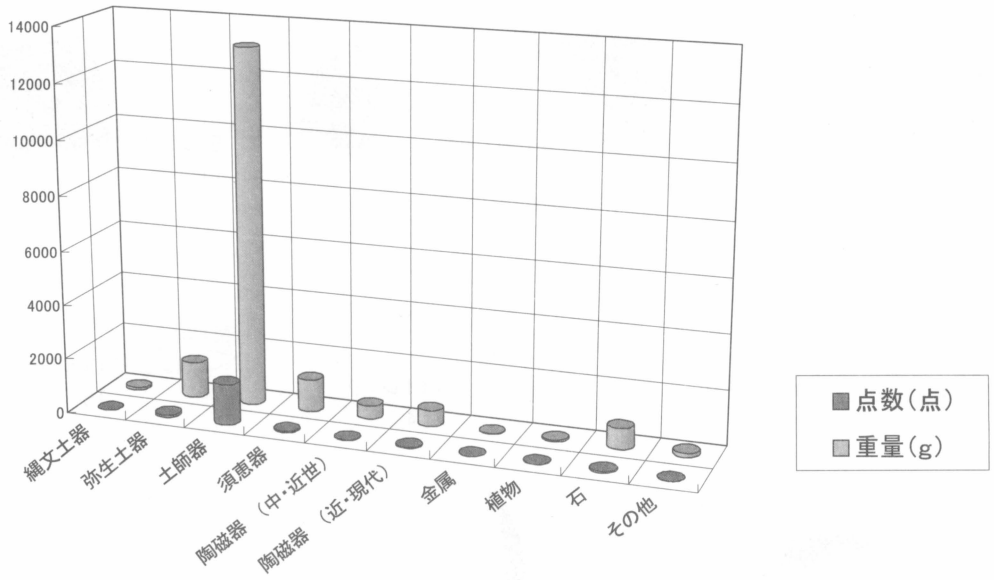
その他　植物遺存体では，種子が出土した。石は，実測した砥石（25）のみが石器で，ほかは礫である。また，埴輪片と思われる分厚い破片が２点出土した。



第５図　トレンチ出土遺物

第2表　トレンチ出土遺物点数・重量一覧表

種類	A		B		C		D−1		D−2		D−3		D−4		D−5		E		F		計	
	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g	点	g
縄文土器	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	84	1	84
弥生土器	1	12	3	14	59	750	2	29	5	38	3	19	−	−	1	162	14	237	4	31	92	1292
土師器	26	204	42	378	774	6765	97	675	215	1529	32	587	−	−	−	−	199	2219	81	777	1466	13134
須恵器	5	62	3	44	22	307	5	135	6	175	−	−	2	175	−	−	5	162	3	97	51	1157
陶磁器（中・近世）	2	35	6	231	1	126	−	−	2	42	−	−	−	−	−	−	−	−	1	36	12	470
陶磁器（近・現代）	8	150	14	359	1	2	4	27	2	22	−	−	−	−	−	−	1	3	1	7	31	570
金属	1	17	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	17
植物	3	33	1	4	6	12	−	−	2	6	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	12	55
石	3	21	10	122	13	172	4	107	4	29	−	−	−	−	−	−	4	191	11	124	49	766
その他	−	−	−	−	1	62	−	−	−	−	−	−	2	40	−	−	−	−	1	58	4	160
					（埴輪片？）								（ミニチュア）						（埴輪片？）			
計	49	534	79	1152	877	8196	112	973	236	1841	35	606	4	215	1	162	223	2812	103	1214	1719	17705



第3章　まとめ

今回確認調査を行った遺跡の周辺地域では，低地遺跡の発掘調査が少なく，基本層序の確立もできていない状態である。トレンチセクションの観察から，色調・土質が明確に異なる層の堆積を確認することができた。これは，時期変遷だけでなく，大きく自然環境の変化を想定できる資料である。また，遺物が比較的豊富に出土していることから，周辺に遺構が存在することは確実であろう。広い調査区であるならば，数面に展開する水田遺構の把握も確実に行えるものと考えられる。今回の層序区分が，周辺地域である程度の普遍性をもつとするならば，第3層群中で1面，第4層群中で1面，第5層上面の計3面で確認面の設定ができ，時期的な遺構の変遷を捉えることが可能になるはずである。

古環境や古代社会の復元には，低地遺跡での発掘成果から得られる情報がかなり重要になってくると考えられる。今後とも，狭い路線幅の調査とはいえ問題意識をもって，より成果を得られる調査方法を指向し，少なくとも基本層序を広域に確立していくことが急務である。

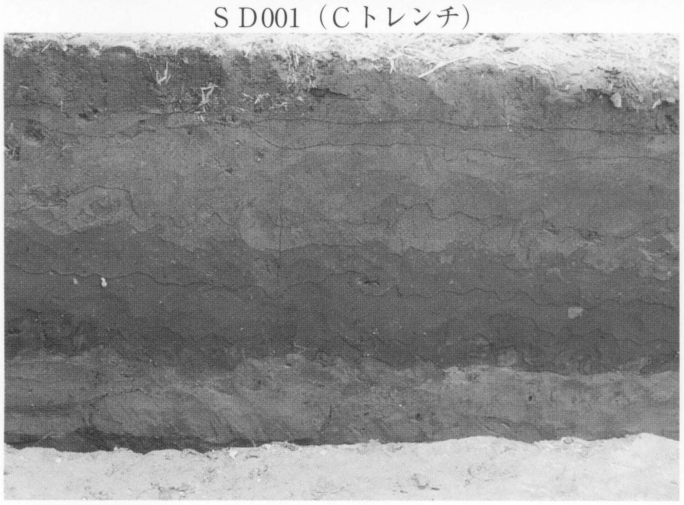
遺跡周辺航空写真（S＝1/10,000）

調査前遠景

Ｃトレンチセクション

ＳＤ001（Ｃトレンチ）

ＳＤ001遺物出土状況

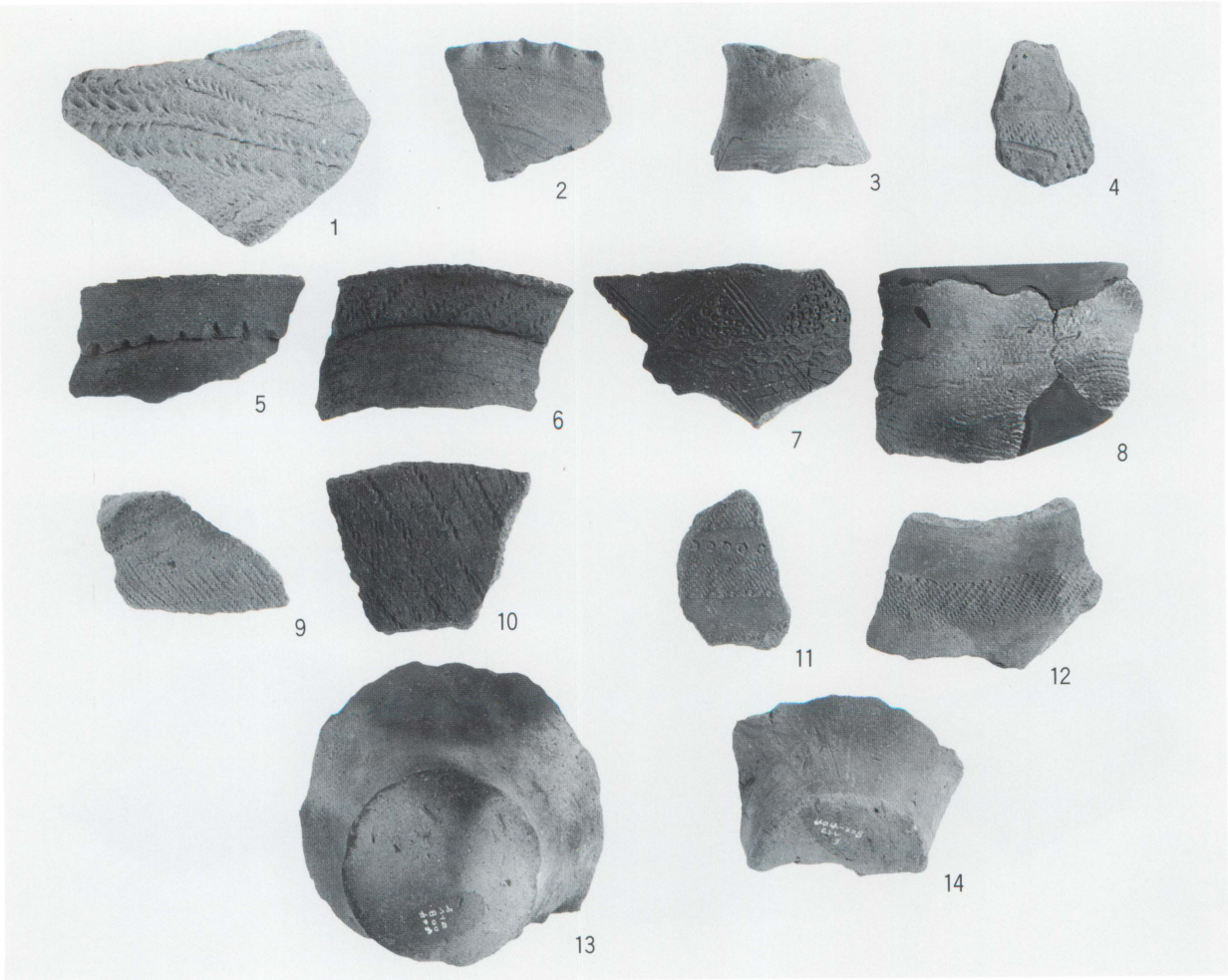


Ｄトレンチセクション

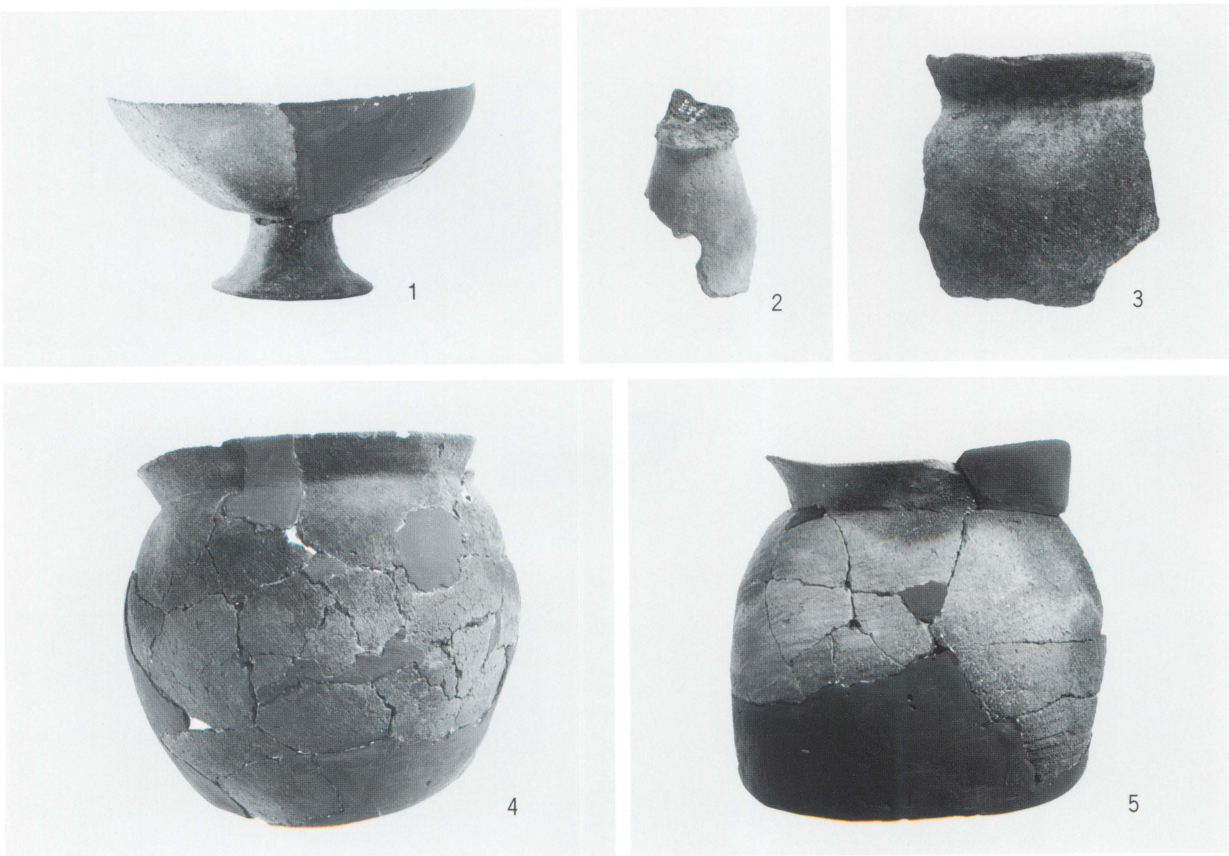
Ｄトレンチ遺物出土状況

Ｅトレンチ

Ｆトレンチ



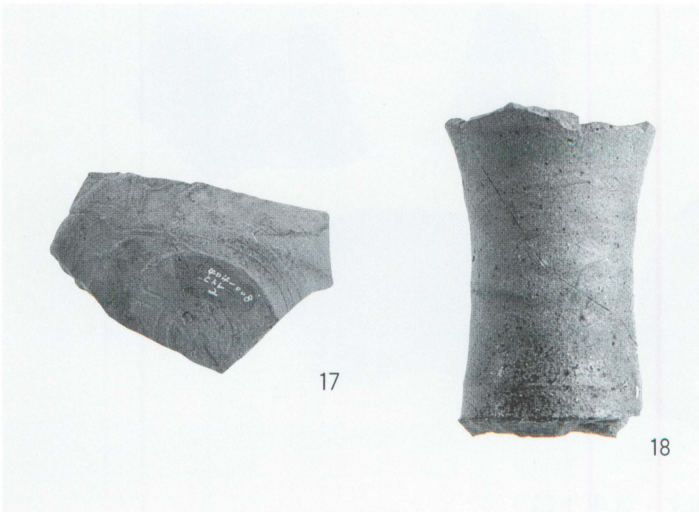
縄文・弥生土器



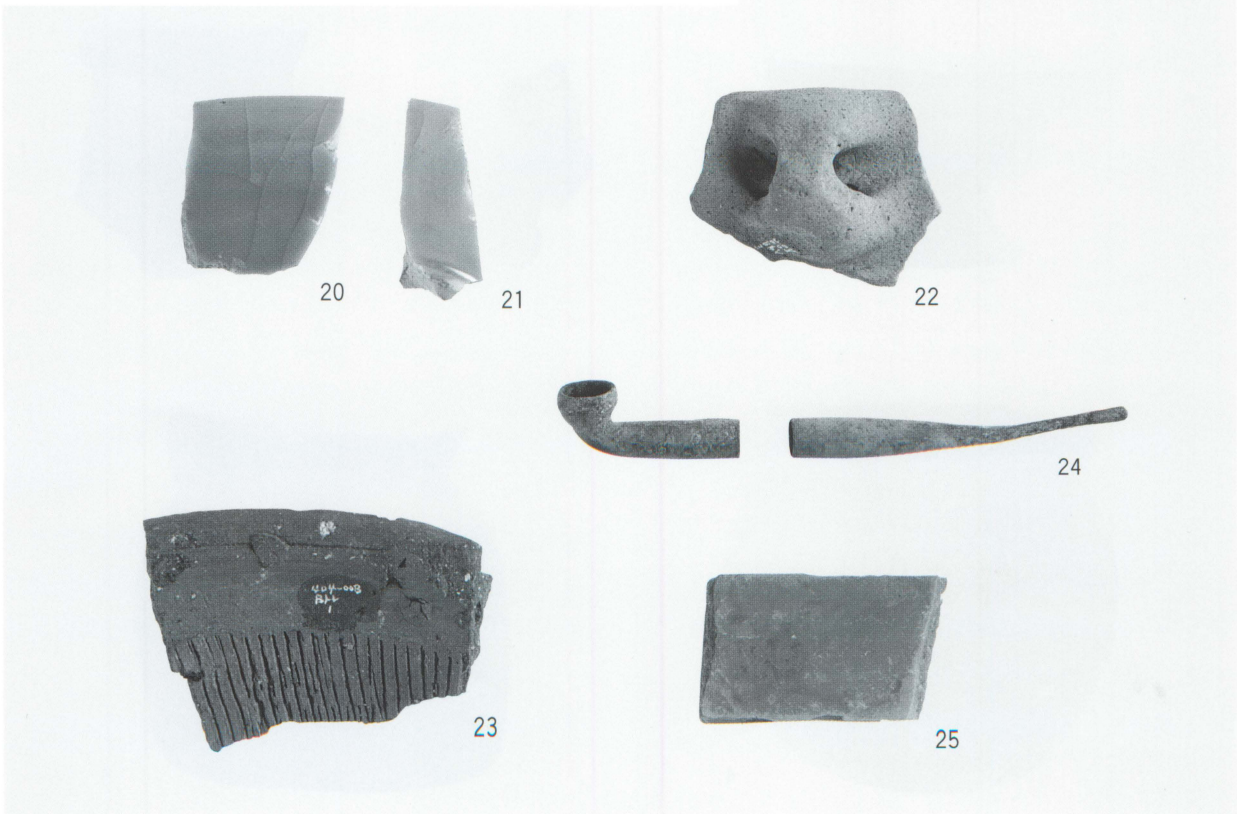
ＳＤ001出土土器

ミニチュア土器

種子



須恵器



中・近世遺物

報告書抄録

ふりがな	なるとうまち　さかいがわＡいせき
書名	成東町　境川Ａ遺跡
副書名	県単交通安全対策事業埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第433集
編著者名	黒沢　崇
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809－２　TEL043－422－8811
発行	西暦2002年３月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さかいがわ 境川Ａ遺跡	ちばけんさんぶぐん 千葉県山武郡 なるとうまちつべあざ 成東町津辺字 こいでした 小出下944 ほか	12404	008	35度 36分 50秒	140度 24分 00秒	2000.10.2 ～10.31	131㎡	県単交通安全対策委託事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
境川Ａ遺跡	低湿地	弥生時代 古墳時代前期 中・近世	水田区画 溝状遺構	弥生土器 土師器，須恵器 陶磁器	部分的だが，古墳時代前期以前にさかのぼる可能性のある水田区画を確認した。

千葉県文化財センター調査報告第433集

成東町　境川A遺跡

―― 県単交通安全対策事業埋蔵文化財調査報告書 ――

平成14年3月25日発行

編　集　財団法人　千葉県文化財センター

発　行　千葉県土木部
千葉市中央区市場町1－1

財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809－2

印　刷　株式会社　ライフ
成田市東和田595